

# 東北地方でこれから播く

## 飼料緑肥作物

をみますと第一表のようです。

第一表 東北地方に於ける秋播牧草収量(播種翌年の)比較 (反当) (東北農試)

牧草名	昭27(貫)	昭28(貫)	平均(貫)
ペレニアルライグラス	755	787	771
オーチャードグラス	545	438	492
チモシー	691	758	725
トルメドウエスク	849	800	825
ブロームグラス	403	565	484
レッドトッパ	978	1,252	1,115
リードカナリーグラス	—	876	876
ル—サ—	551	639	595
赤クロバ—	772	1,218	990
ラデノクロバ—	738	1,388	1,063
アルサイクロバ—	580	541	561
サブクロバ—	410	895	653
スイートクロバ—	445	674	560
バ—フッドトレフォイル	521	647	584
備考	播種期は8月下旬	8月9日	下旬上

春からの)利用を目的とした草地灌漑が優秀な成績を収めておりますが、東北農試が岩手県浪民村で行った調査結果ではオーチャードグラスが灌漑草地牧草としては断然多収で、四回刈取りで平均二、一〇〇貫もの収量を挙げております。更にこれに苜蓿の赤クロバ—、ラデノクロバ—を混播して多収を期すると共に質の向上を図る方法も必要な着眼であります。

(三) 集約、経済的な放牧地にはラデノクロバ—

夏季の乳牛管理労働の軽減と、乳牛の健康、飼料経済、既肥生産の必要度の高い少頭数飼育農家にとつては集約経済的な放牧地を造成利用することが必要であります。

東北農試で調査した結果について参考事項を掲記してみますと、

(二) 繁放牧に利用された草種の時期と収量構成割合

草丈六寸程度に生育し繁放牧に利用出来た期間	収量構成割合(上記利用期間に於ける)
五月一日～五月四日	三〇～三二%
五月五日～五月八日	二五～二七%
五月九日～五月十二日	二〇～二二%
五月十三日～五月十六日	一五～一七%
五月十七日～五月二十日	一〇～一二%
五月二十一日～五月二十四日	五～七%
五月二十五日～五月二十八日	二～四%
五月二十九日～六月一日	一～二%

(ホ) 収量 四月上旬より一月中旬迄に一回の繁放牧を行い、その生草収量は約二、七〇〇貫程度。

即ち早春はレイプ、イタリアンライグラスが主体となり、六月に入りラデノクロバ—が収量の八割程度を占め、以後繁放牧中止の晩秋迄八、九割の優占草種となつて家畜に高蛋白の良質草を給与してくれるわけで集約経済的な放牧地の草種としてはラデノクロバ—を主体とし、それにレイプ、イタリアンライグラスを混播することが有利であるわけである。

反当約二、七〇〇貫中その八割がラデノクロバ—で、このラデノクロバ—の生産する蛋白量だけをみましても米糠に換算して約四〇〇貫という莫大なものになり、如何に経済的であるかがわかります。

二 初冬の候に青刈として利用できる燕麦、イタリアンライグラスとレイプ

夏取作物の跡地の又は水田裏作を利用して初冬の頃、長い冬籠りの舎飼を前に豊富な栄養のある青刈飼料を家畜に給飼してやることは積雪寒冷地の酪農家にとつては大切なことです。これには短期間に、然も冷涼時期に旺盛な生育をする燕麦とイタリアンライグラス及びレイプが好適と思ひます。福島県農試で行つた秋播を初冬刈取りの青刈収量試験の成績をみますと第二表の如くです。

東北(東北六県、北陸の一部及び関東東部の高冷地等)地方の秋播飼料緑肥作物の栽培は、気象的には寒冷、雪害、土壌的には多湿という不良条件に支配されるところが多く、その適作物も耐寒、耐雪、耐湿、耐病性等を有していることが必要なわけでありませぬ。

更に又家畜飼養の面からみますと、冬期間は舎飼という悪環境のために緑飼は全く不足し、糞草、サイレージが基礎飼料となりますので、新鮮なビタミンに富んだ多汁飼料、即ち冬期間の貯蔵根菜、及び初冬と早春に利用できる青刈飼料が温暖地よりも強く要求されるわけである。

一 広大な牧野はラデノクロバ—、赤クロバ—、ルーサン、ペレニアルライグラス、チモシー、レッドトッパ、ケンタッキ—、三—フェスク、オーチャードグラス等の優良牧草で改良しましょう。

(一) 酪農安定の第一歩は牧野の草生改良

東北六県の放牧採草地の所謂牧野面積は四三万町歩もの広大なものですが、その殆どはかつての馬産時代に踏使した荒廢低生産草地であります。

質的にも量的にも多くの草を要求される乳牛主体の酪農では優良草地の造成が経営合理化の第一歩であります。今こそ広大な潜在資源を活用するための牧草播種に絶好の季節であります。それでは東北地方の牧野に適した秋播しうる牧草にはどんなものがあるでしょうか。

今、東北農試に於て試験研究された成績

即ち八月下旬乃至九月月上旬播きが適期で多収なものはレッドトッパ、ペレニアルライグラス、ケンタッキ—三—フェスク、チモシー、ラデノクロバ—、赤クロバ—、ルーサン等が挙げられます。

又、ルーサンも播種翌年に於て本程度度の収獲を得られることは永年性で三、四年後に最高収量に達する特性からみて、収量的にも相当の期待が持て、三、四年以降の苜蓿の優占草種として永年草地には是非とも導入したいものであります。

(二) 永年灌漑草地にはオーチャードグラス

冬季間の寒冷防止と多収、草地の長期(早

(イ) 調査草種と播種量(反当)

レイプ、イタリアンライグラス、オーチャードグラス、チモシー、ルーサン、各約半封度(二〇〇瓦)、赤クロバ—、バ—フッドトレフォイル、各約半封度(三〇〇瓦)、ラデノクロバ—約二封度(一、〇〇〇瓦)、ス—ダングラス(迎春追播)約半封度(二〇〇瓦)を混播

(ロ) 播種期 九月三日

(ハ) 施肥 基肥厩肥五五〇貫、硫酸二・七貫、過石二二貫、塩加一・一貫、炭カル二〇貫、追肥(八月下旬)硫酸五貫、過石八貫、塩加二・三貫

